

「リボンの騎士」少女フレンド版（手塚治虫 作／北野英明 画）概要

少女フレンド 1967（昭和 42）年 25 号－30 号（6 回連載）

国立国会図書館デジタルライブラリー閲覧

2440 年のフランス・パリ。天才発明家フランツ・チャーミングは学生時代の同窓会を開催し、自身が創り出したタイムマシンをお披露目しようとしていた。

壁に掛かった 16 世紀のフランツの祖先、サファイヤ・デ・シルバーランド王子の肖像画を見て、友人にして常にフランツとライバル関係にあったゲールは「これはどう見ても女性だ。」と言い出す。祖先を侮辱するのかとムキになり、絶対に男だと主張するフランツとの間でとんでもない賭けになる。もしサファイヤがゲールの言う通り女性なら、フランツは全財産をゲールに渡すことになるのである。かくして発明したばかりのタイムマシンに乗り、フランツは 900 年前へと時間を遡って、サファイヤが男か女か確かめに出発したのだった。

フランツが到着したのは 1581 年、サファイヤの居城＝オパール城に程近い森の中。そこでいきなりフランツはナイロン卿を伴ったサファイヤと出会う。サファイヤの所作も言葉も男そのもの、フランツがサファイヤにあなたは男か女と尋ねると、「この国では男しか王位は継げない。従って男だ。」と即座かつ明確に返答があった。安堵するフランツをサファイヤは乱暴な態度で直ぐにここから立ち去れ、と追い払う。その場を後にしてタイムマシンの元に向かおうとしたフランツだが、ジュラルミン大公一派に拉致されてしまう。ジュラルミン大公はサファイヤに男か女かを質したというフランツに興味を抱き、仲間に引き入れようとしたのだ。フランツはサファイヤを亡き者にしシルバーランドを手中に収めんとするジュラルミン大公の企みを知り、その場を脱出する。

一方、シルバーランドに謀反の動きがあることから巻き込むまいとしてフランツに去るよう命じはしたものの、実のところサファイヤはすっかりフランツに一目惚れしてしまっていた。初恋である。

王子としての使命からフランツを忘れようとするのだが、思いは募るばかり。その様子を見抜き心配するうばやにだけは、本心を語るサファイヤであった。

ジュラルミン大公はノルウェーから騎士ゲール（あのゲールの祖先である）を招き、これと手を組んでいよいよシルバーランドを我が物にするべく動き出していた。剣の達人ゲールをしてサファイヤを葬ろうと言うのである。そのゲールをサファイヤの方から激しく挑発し、決闘へと仕向ける。サファイヤはゲールとの決闘に心を向かわせることで何とかフランツを忘れようとしていたのだ。

決闘が始まる。フランツを思い心乱れているサファイヤは（サファイヤの母である）お妃の

心配通り苦戦を強いられる。それでも戦いは五分で膠着していた。そこにジュラルミン大公の謀略がサファイヤの動揺を誘う。今日は予め決まっていた城内の点検の日、間もなく徹底的に全居室を検める時間だというのである。サファイヤの部屋の隠し戸棚には、サファイヤが女であることを記した彼女の日記がある。それが見つかったら…。たちまちサファイヤはゲールに攻め込まれ、絶体絶命のピンチに陥る。

そこへお妃の指示を受けてフランツを捜索していた家臣が、森で出会った彼を決闘場へと連れて来た。サファイヤは駆けつけたフランツの姿を見るや、城の自室から件の日記が誰の目に触れることのないよう取って来て欲しいと懇願する。フランツは直ちに城へ向かい、既に部屋を物色し始めていたナイロン卿たちを振り切り、無事日記を持ち出すことに成功する。ところが途中で日記を取り落としそうになり、その弾みで日記の中身がフランツの目に入ってしまう…。

日記を携えサファイヤの元に戻ったフランツを見て、安心したサファイヤは元気を取り戻してゲールを圧倒、彼の剣を跳ね飛ばして逆転勝利を収める。

サファイヤはぜひお礼を、とフランツを午餐に招待する。ひととき、二人きりの楽しい時間であった。食事を終えて退去しようとするフランツに城にとどまるよう願うサファイヤだが、それを固辞してフランツは去る。一通の手紙を残して…。

手紙にはフランツがサファイヤの秘密を知ってしまったこと、そして女性としてのサファイヤを愛してしまったことが、別れの言葉とともに記されていた。フランツも既にサファイヤに恋していたのだ。

たまらず馬を駆り、フランツを追うサファイヤ。出会った森で再会した二人。「王子は女」その秘密を知られた以上、サファイヤはフランツを殺さなければならない。フランツも覚悟して目を閉じた…しかしサファイヤがフランツに手をかけることなどできるはずもない。サファイヤが構えた剣は彼女の手から滑り落ち、二人はかたく抱き合って愛の言葉を交わした。今やサファイヤは愛らしい女性そのものであった。

甘い二人の時間を遮って、ジュラルミン大公一派の追手が迫る。フランツはさすがにサファイヤに改めて別れを告げ、この国の法律を変えて女でも王位につけるよう「きみ自身が（決まりを）改めるんだ！」とサファイヤを力強く励ますと、タイムマシンに乗り込んで現代へと帰還した。サファイヤには愛する人の正体が判らないままである。

現代のパリに戻ったフランツは、潔く賭けの負けを認め、全財産をゲールに譲ると言う。

そこでゲールが自分も元々は貴族の出だと証明すると言い出し、祖先の古い遺言状を持ち出した。それはサファイヤと決闘したあのゲールの遺言であった。何とそこには「私が決闘して敗北したサファイヤには、実は女であるという噂がある。しかし私が女に負けるはずはないので、サファイヤは断じて男である。賭けてもいい。もしもサファイヤが女であると証明した者が現れたなら、その者にゲール家の全財産を渡すよう、子孫累々に遺言する。」と書いてあったのである。これでフランツの全財産は再びフランツに戻ってくる…！

しかしフランツは泣き喚くゲールに、約束通り全財産を渡すと伝え、自身は再びタイムマシンに乗りこみ、去って行ってしまった。

フランツはどこへ行ったのかー。

「あの時代に戻って サファイヤとなかよく くらしているのかも…」

(了)

「リボンの騎士 少女フレンド版」表紙画像

